



前主将・MF
 高原 優介 君
 (3年、ベルディSSS
 岩手U-15出身)

チームの底上げを期待

相手のプレッシャーにのまれてしまい、チャンスを作ることができなかった。全国はプレーだけでなく、応援や控えの選手、チーム全体としてのレベルが高い。後輩たちには、チームの底上げをして全国に挑んでほしい。



現主将・MF
 太田 竜雅 君
 (2年、遠野中出身)

目指すは全国ベスト8

試合での判断力の低さが仇になって、パスをつなげることができなかった。1つ1つのプレーのスピードを上げなければ、全国に通じないことを実感。キャプテンとしてチーム全体を引っ張り、全国ベスト8を目指す。



現副主将・FW
 立花 健斗 君
 (2年、盛岡ウィングス出身)

応援の力に感謝

試合で思うようなプレーができず、自分たちの練習の成果を発揮できなかった。集中力が切れそうな時も、応援してくれている声がかたになりありがたかった。新チームで全国の舞台を目指しプレーしていく。



5



7



6

5_主将の高原がPKを冷静に決め1点差に
 6_MF太田が相手の攻撃を阻止
 7_FW立花は試合でチーム最多のシュート2本打った



1

死力を尽くすも惜敗

第96回全国高校サッカー選手権大会ダイジェスト

5年連続夢の舞台に立った遠野。ペンギンユニフォームは全力でボールを追い掛けたが、全国の壁を超えることはできなかった。

第

96回全国高校サッカー選手権大会は昨年12月30日から1月8日までの7日間、埼玉スタジアム2002などで熱戦が繰り広げられた。遠野の初戦は2日、埼玉県浦和駒場スタジアムで岡山県代表の作陽と対戦。死力を尽くして戦うも力及ばず、1対2で初戦突破は叶わなかった。

前半は相手に攻め込まれる場面が続いた。GK菊池朋哉(2年)の好セーブなどでこらえていたが、26分、ロングボールの対応が遅れ、PKから先制を許す。さらに、ゴール正面からのFKで追加点。相手のシュート10本に対し、遠野は0本で終わった。

2点差を追う遠野は後半、FWの阿部亮太(3年)、立花健斗(2年)、中野友佑輝(2年)を中心に反撃に転じる。後半28分には立花が相手選手のファウルを誘い、PKを獲得。MF高原優介(3年)が、冷静に決め1点差に詰め寄るも、作陽の守備を攻略しきれず、ホイッスルが鳴った。惜しくも初戦敗退となった全国大会。持ち味のつなぐサッカーを発揮することができず悔し涙をのんだ。応援に駆け付けた卒業生や保護者たちは、遠野高校の伝統と誇りを胸に戦った選手へ惜しみない拍手を送った。

SOCCKER DIGEST

96th ALL JAPAN HIGH SCHOOL SOCCER TOURNAMENT "TONO vs SAKUYO"

最後まで走り抜いた遠野イレブンに温かい拍手が送られた



1_初戦突破をめざし、闘志を燃やす遠野高校イレブン 2_相手ゴールに迫るFW阿部 3_相手選手とボールを競り合うFW立花 4_GK菊池の好セーブが光った



第2回戦試合結果
 1月2日 浦和駒場スタジアム(埼玉)

遠野	1	0-2	2	作陽
得点				
高原(69分)				西山(26分) 中西(38分)
シュート数				
前半 0本				前半 10本
後半 3本				後半 5本

